平成22年度スジアオノリ養殖概況

加藤慎治

吉野川では10月から天然採苗が行われ，養殖が開始された。漁期当初には藻体の生長が悪く生産量が伸びなかったが，12月以降は順調に生産され昨年を大きく上回る生産となった。全体の生産量でも昨年を大きく上回り，過去2番目に多い生産量であった。

1.　人工採苗用の母藻の生産と配布

大津，川内，応神町，徳島市第一，渭東及び徳島市辰巳の各漁協へ母藻（吉野川産広域温度対応株Y1124)を配布した。

2.　平成22年度漁期の共販結果

図1に平成22年度，21年度の徳島県漁連共販数量を，図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。平成22年度漁期の共販実績は数量83トン，金額6.8億円であった。不作だった昨年度と比べると，共販数量が前年比138%となり，また平均単価については近年高水準で推移しており金額では過去最高の生産額となった。

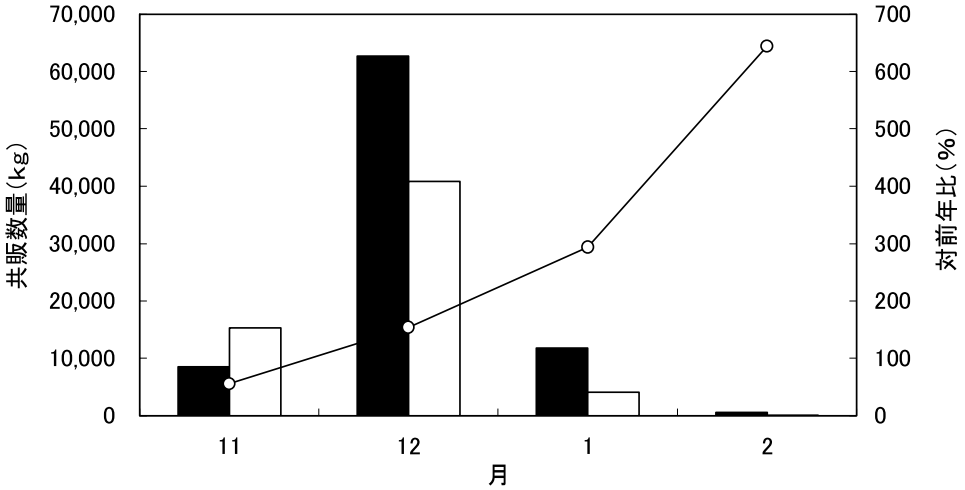

図1．月別共販数量の推移。■，平成22年度；□；平成21年度；○，対前年比

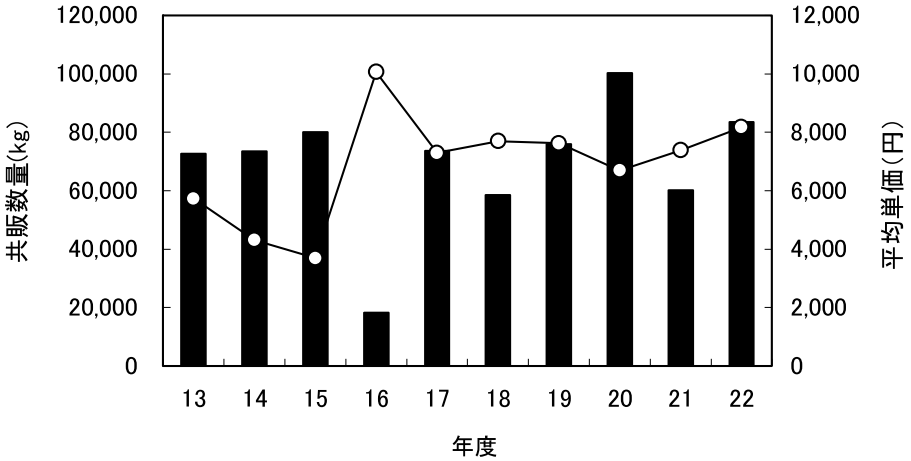

図2．年度別共販数量と平均単価の推移。■，共販数量；○，共販単価